

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成21年8月調査結果

現在の景気の現状判断については、「良い」と感じられた方はみえず、また、全体のD I値でも15.4%ポイントと非常に厳しい感覚となっています。特に、雇用関連については、D I値3.6%ポイントと極めて厳しい状況を示しています。

次に1年前と比べた場合の景気の現状判断についても、「良くなっている」と答えた人はみえず、こちらも全体のD I値で19.3%ポイントと非常に厳しい状況となっています。

また、景気悪化後の3ヶ月前と比べてた場合の景気の現状判断では、家計動向関連で来客数や単価の動きを理由にD I値が41.9%ポイントと悪化傾向を示していますが、雇用関連では、求人数の動きや周辺企業の様子を理由にD I値57.2%ポイントと改善の兆しが感じられています。このため、全体ではD I値44.4%ポイントとやや悪化傾向に留まっています。

最後に3～6ヶ月先の景気の先行き判断についても、雇用関連でD I値57.2%ポイントと改善見込みとなっていますが、家計動向関連では小売関連が厳しい見込みを示しており、D I値42.6%ポイントとやや厳しい見込みが予想され、全体でも44.9%ポイントと3ヶ月前との比較から0.5%ポイントの上昇を見込むに留まる結果となりました。

なお、今後の調査を基に分析し、景気の現状や先行きに対する判断を行っていきます。

平成21年9月11日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで

○有効回答率

97.8% 有効回答客体 44名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4		⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状として「良い」や「やや良い」と回答された方はなく、「やや悪い」や「悪い」の回答が84.1%で、D I値が15.4%ポイントと非常に厳しい現状判断となっています。

特に雇用関連では、「やや悪い」や「悪い」が100%で、D I値も3.6%ポイントと極めて厳しい現状となっており、家計動向関連でも小売関連が9.4%ポイントと非常に厳しい現状判断となっています。

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	2.3	11.3	27.3	56.8	2.3	15.4
家計動向関連	0.0	2.7	13.5	29.7	51.4	2.7	17.6
小売関連	0.0	0.0	6.3	12.5	75.0	6.2	9.4
飲食観光関連	0.0	7.7	23.1	30.8	38.4	0.0	25.0
サービス関連	0.0	0.0	12.5	62.5	25.0	0.0	21.9
雇用関連	0.0	0.0	0.0	14.3	85.7	0.0	3.6

※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べて「良くなっている」との回答はなく、「やや悪くなっている」や「悪くなっている」の回答が77.3%で、D I値が19.3%ポイントと非常に厳しい状況となっています。

特に「現在の景気の現状判断」と同じく家計動向関連の小売関連が14.1%ポイント、雇用関連が7.2%ポイントと非常に厳しい状況を示しています。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	0.0	9.1	13.6	22.7	54.6	0.0	19.3
家計動向関連	0.0	10.8	13.5	27.0	48.7	0.0	21.6
小売関連	0.0	6.3	6.2	25.0	62.5	0.0	14.1
飲食観光関連	0.0	23.1	15.4	30.7	30.8	0.0	32.7
サービス関連	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	18.8
雇用関連	0.0	0.0	14.3	0.0	85.7	0.0	7.2

※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

景気の悪化後である3ヶ月前と比べても「良くなっている」との回答はなかったが、「変わらない」が47.7%となり、DI値44.4%ポイントとやや悪化傾向に留まっている。
 家計動向関連では、サービス業関連がやや厳しさを増しており、DI値41.9%ポイントと緩やかな悪化傾向が続いている。
 雇用関連では、DI値57.2%ポイントと改善の兆しを感じられている。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
合計	0.0	20.5	47.7	20.5	11.3	0.0	44.4
家計動向関連	0.0	18.9	43.3	24.3	13.5	0.0	41.9
小売関連	0.0	12.5	50.0	25.0	12.5	0.0	40.6
飲食観光関連	0.0	38.4	23.1	23.1	15.4	0.0	46.1
サービス関連	0.0	0.0	62.5	25.0	12.5	0.0	37.5
雇用関連	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0	57.2

※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてDI値を計算

2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、値下げ商品や安売り商品しか売れないなど「単価の動き」が56.3%と高く、ついで、必需品しか買わないなど「お客様の様子」が37.5%となっています。

飲食観光関連では、来客数の減少など「来客数の動き」が53.8%、ついで、安いものしか買わない、食べないなど「単価の動き」が46.2%となっています。

サービス業関連では、利用回数の減少など「お客様の様子」が62.5%と主な理由となっています。

次に、雇用関連では、「求人数の動き」が71.4%と高く、ついで、企業の受注状況など「周辺企業の様子」が57.1%となっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	37.8	27.0	43.2	40.5	2.7	5.4
小売関連	25.0	31.3	56.3	37.5	0.0	6.3
飲食観光関連	53.8	23.1	46.2	30.8	0.0	7.7
サービス関連	37.5	25.0	12.5	62.5	12.5	0.0
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	71.4	42.9	28.6	0.0	57.1	0.0

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、雇用関連ではD I値57.2ポイントと改善見込みとなっています。家計動向関連では、サービス業関連が50.0ポイントと現状維持を見込み、小売関連で37.5ポイントと厳しい見込みを示しており、家計動向全体では、42.6ポイントとやや厳しい見込みが予想されています。

全体では、44.9ポイントと3ヶ月前との比較から0.5ポイントの上昇を見込むに留まる結果となりました。

	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.3	18.2	47.7	15.9	13.6	2.3	44.9
家計動向関連	2.7	16.2	43.3	18.9	16.2	2.7	42.6
小売関連	0.0	18.7	25.0	31.3	18.7	6.3	37.5
飲食観光関連	7.7	15.4	46.1	7.7	23.1	0.0	44.2
サービス関連	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0	0.0	50.0
雇用関連	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0	57.2

※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	やや良くなっている	悪くなっている	商店街関係者	販売量の動き	・政府の経済対策が一応の効果を上げていると考えられる。しかし、値下げ合戦による諸業界の経営が気にかかる。
		やや良くなっている	小売店	お客様の様子	・景気は多少良くなっていますが、冷夏、悪天候がそれ以上に悪いと思います。
		やや良くなっている	道の駅	単価の動き	・来客数はあまり変動しないが、売上はかなり上向いている。一方で飲食は来客、売上とも昨年より、やや下降気みです。全体としては良いです。
		やや悪くなっている	飲食店	来客数と単価の動き	・企業関係の動きが悪い。(経費での利用減) ・単価の高い物が売れにくい。
		やや良くなっている	スナック	販売量の動きとお客様の様子	・マスコミに動揺している所もありましたが、少し安定して来たようです。お客様のお話内容が、少し一時と思うと忙しくなった様子がうかがえます。
		やや良くなっている	居酒屋	お客様の様子と事業所の従業員の入れ替わり	・自分の店に関しては、来月のお客様を確保する為のサービスを考えてつないでいる。自分(お店)の利益に不利なものは、早めに対処しているつもり。
		やや悪くなっている	観光案内所	来客数と販売量の動き	・世間の不景気。 ・7月～8月の長雨。
	変わらない	やや悪くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・必需品以外は買わなくなった。量も必要最低限しか買わなくなった。
		悪くなっている	小売店	単価の動きとお客様の様子	・名古屋方面の販売量が低迷。 ・大きな単価より小単価のお客様が多くなっている。
		悪くなっている	小売店	販売量の動きとお客様の様子	・単価のランクを下げたいという客が少しずつ増加。節約志向。
		変わらない	小売店	単価の動き	・市場価格より安い物(利益率をおさえた物、又は赤字の物)は、ビックリする位よく売れるが、定番商品は売れない。
		悪くなっている	スーパー	来客数の動き	・特売商品のある日だけ、集中して来店するお客様が多くなった気がします。昨年からの買い控えが続いているようです。
		悪くなっている	スーパー	単価の動きとお客様の様子	・単価の下向、節約志向。
		悪くなっている	家電販売店	来客数、販売量、単価の動きとお客様の様子と夏の暑さ	・テレビ・冷蔵庫は、エコポイントにより好調だったが、夏の暑さがエアコンにブレーキをかけてしまい、また昨年は、エアコン販売台数が好調だったので前年比がかなりダウンした。
変わらない	道の駅	来客数の動き	—		
悪くなっている	金融機関	お客様の様子	・事業先の売上高は1年前と比べ減少している先が大半である。業種によって、4月以降の売上高は回復傾向を示している先が多くなっている。ボーナス支給額は前年比マイナスとなっている。		
変わらない	金融機関	来客数の動きとお客様の様子	・通帳残高が減少している。定期など固定資産を好まない。貸付の返済が遅れ気味となっている。		
悪くなっている	自動車販売	来客数と販売量の動き	・特に土・日の来客数が減っている。(前年比50%以下) ・販売量低下、台当たり単価減少。(安い車しか売れない。)		
悪くなっている	理容室	来客数の動きとお客様の様子	—		
悪くなっている	ホテル	来客数の動きとお客様の様子	・例年、8月の客室稼働率は100%近くで推移するが、今年は盆期間を除き空室が目立つ日があった。		

	変わらない	旅館	単価の動き	—	
	悪くなっている	タクシー運転手	お客様や競争相手の様子	・他社も稼動している様子が見られない。お客様の使用回数も減っている。(タクシー利用者)	
	変わらない	タクシー運転手	お客様の様子	・近距離のお客さんが多い。	
やや悪くなっている	悪くなっている	商店街関係者	単価の動き	・とにかく安いものと言われる方が増えた気がする。	
	やや悪くなっている	商店街関係者	単価の動き	・単価が下がっている。	
	やや悪くなっている	小売店	販売量と単価の動き	・消費者の節約指向が、さらに高まっているように感じます。	
	やや悪くなっている	スーパー	単価の動き	・お客様の消費単価の減少と特売品のみの買上げが多い。	
	やや悪くなっている	レストラン	単価の動き	・以前より、千円札が増えている。	
	やや悪くなっている	福祉施設	販売量の動き	・夏製品とか、自動車など売れていないため、休みの日が多くなっている。	
	やや悪くなっている	I T 関連会社	販売量と単価の動き	・衆院選の悪影響か？	
	やや悪くなっている	旅館	来客数、単価の動きとお客様の様子	・来客数の減少、予約数の減少、定額以下の客が増(例：7,000円を3,000～5,000円に)	
	悪くなっている	旅行代理店	来客数の動き	・来店されるお客様の数が変わってきています。	
悪くなっている	悪くなっている	小売店	来客数の動き	・来店客数の減少傾向は止まらず。	
	悪くなっている	小売店	単価の動き	・1人あたりの客単価が、少なくなっている。食事1回分しか買っていかない。	
	悪くなっている	レストラン	来客数と単価の動き	・来客数、客単価が下がっている。	
	悪くなっている	レストラン	販売量の動き	・前年対比98%と2年連続減少している。	
	やや悪くなっている	美容室	来客数の動き	・来店回数が少しずつ伸び、回数も少なくなっているの、何んとか。	
雇用関連	やや良くなっている	悪くなっている	人材派遣会社	求人数の動きと周辺企業の様子	・半導体基盤、自動車関連(部品)の派遣先より受注あり…徐々に。※H20.12下旬～H21.4末の間、この間、派遣契約解除(約60%)…中津川地区
		悪くなっている	自治体労働政策担当	求人数、求職者数と採用者数の動き	・有効求人倍率の推移 H20.6 1.50 H21.4 0.49 H21.6 0.51
	変わらない	悪くなっている	職業安定所	求人数、求職者数の動きと周辺企業の様子	・新規求人は4月以降前年同期比約5割減で推移、新規就職は4～7月平均で約2割の増となっている。
		悪くなっている	労働金庫	周辺企業の様子	・リストラが進んでいる。
		変わらない	学校就職担当	求人数と採用者数の動き	・昨年同月での比較で減となっているから。
		悪くなっている	学校就職担当	周辺企業の様子	・中津川管内の企業の仕事量が増えているという情報がない。
		悪くなっている	労働相談所	求人数と求職者数の動き	・ハローワーク等の求人件数が非常に少ない。(特に製造職種) ・市の雇用助成金に対する活用が少ない。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	良くなる	観光案内所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 / 1 より栗きんとんが市内一斉に販売が開始した。 ・ 9 / 4 より栗拾い（いが栗の里）が開始。 ・ 紅葉と温泉などの観光客が増える。
	やや良くなる	小売店	・ 名古屋の情勢が少し変わりつつある事を願って、です。
		小売店	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今が底の様な気がする。 ・ 今後多少上向くのでは…。
		小売店	・ 生活必需品は多少良くなるが、それ以外はさらに悪くなると思います。
		スナック	・ 皆さんそれぞれ努力していると思います。原点に戻る心がけを持つ事が大切だと思います。
		居酒屋	・ そうあってほしいと思うから。
		I T 関連会社	・ 秋から来年にかけて、今が底なら少しは上向くと期待したい。
	変わらない	小売店	・ 今は、悪い中での小康状態。
		スーパー	・ 政権交代により、どうなっていくのか分からないが、そんなに急に変わらない気がします。
		スーパー	・ 小康状態。
		道の駅	—
		道の駅	・ 道の駅として、地域の人にもっと利用していただける企業努力は実施するが、地域外の観光客の利用はやや少なくなるよう思います。
		飲食店	・ 40代、50代の世帯主の家庭の収入の不安定。
金融機関		・ 製造業では売上高は回復傾向にあり、小売、建設業は売上高の低迷が続いており、業種によってバラツキがでてきている。	
自動車販売		・ 製造業では依然として仕事量が少なく、週休3日を実施しているところも多く、まだ社会経済は好転の兆しが見えてこないし、実感が湧かないため。	
美容室		・ 良くなる様に……。葉書を出したりしてますが、中々に……。	
理容室		—	
福祉施設		・ 景気がよくなるには時間がかかると思います。アメリカの経済が良くなると無理な様な気がします。	
ホテル		・ 景気は下げ止まりつつあるものの、雇用情勢の悪化が続いており、将来に対する不安から現在の状態がしばらく続くと思います。	
旅館		・ 予約状況。	
旅館		—	
タクシー運転手	・ 市外から会社関係への出張がないので、お客も少ない。（工業団地への）		
タクシー運転手	・ 毎日、毎日が変わらず、同じお客様しか乗車されない為。		
やや悪くなる	商店街関係者	・ カードローン、クレジットカード等の個人融資が規制されるため、不良債務者は、減少すると思われるが、個人消費には何らかの影響があるのでは？	
	小売店	・ 地場産業の回復が見えてこない。	

	小売店	・山間部では、景気の底打ち感もなく、この状況がまだまだ続くと思われる為。	
	小売店	・政権交代で先行き不安。	
	スーパー	－	
	金融機関	・給与所得者は、若干ボーナス等が少なくなったとしても変わらないが、自営業の仕事がかなり少なくなっている。	
	旅行代理店	・インフルエンザなどの影響で、旅行に行く方も減っています。キャンセルなども考えている方も見えるので。	
悪くなる	商店街関係者	・将来に対する不安に思っている方が多いので。	
	商店街関係者	・商品の買い替えをなかなか、しない。	
	家電販売店	・冬の寒さは、暖冬の予報なら暖房機の売上げが下がる。テレビはエコポイントで好調をたもっていくと思うが、左右される年末時期だけに、寒さによって売上げもわからなくなる。	
	レストラン	－	
	レストラン	・良くなる要因が無い。	
	レストラン	・政権交代で、今後の情勢はつかみきれないが、良くなるとは思えない。	
未回答	商店街関係者	・選挙の結果、今後どのように分らないが、良くはならないと思う。	
雇用 関 連	やや良くなる	学校就職担当	・新聞、ニュース等で良くなるという話を聞かないから。
		人材派遣会社	・雇用状況は一段と厳しさを増していますが、一部回復のきざしが見え、底は脱したと考えられます。…派遣先企業は慎重を期しており、従来のように派遣期間の長期化を見直しており、短期雇用が大半です。 ※現在多くの方が、失業給付を受給中であり、今秋(給付切れ)多くの求職者が予測されます。
	変わらない	職業安定所	・底を打った感はあるが、事業所の話として上向く材料が見当たらない。 ・雇用調整(休業)している事業所も今のところ減少する心配がない。
		労働金庫	・好転する材料がない。
		学校就職担当	・これから景気が序々に回復したとしても、結果がでるのはもっと先になるのではないか。
		労働相談所	・勤労者所得がマイナス状態、個人消費がマイナスである。
		自治体労働政策担当	・景気指標など景気の底を示すものが見られるが、実態として景気が良くなるか不明。